

日 時：2023年5月19日（金）15:30～16:55

出 前 先：大阪キャッスルホテル 7F

受 講 者：日本補償コンサルタント協会近畿支部総会参加者（約 80 名）

講 師：楠見晴重先生（関西大学教授）

授業題目：「京都地下に眠る千年の水脈」

本出前授業は、日本補償コンサルタント協会近畿支部総会特別講演において、参加者の地盤工学に関する知見を深めるために実施されました。当該講習会は総会の参加者約 80 名の方々が受講されました。講師は、関西大学教授 楠見晴重先生にお願いしました。大阪キャッスルホテル 7F にて、対面形式で開催されました。

楠見先生には「京都地下に眠る千年の水脈」と題した講義をいただきました。京都の町は地下水と密接な関係にあり、寺社の手水舎にはじまり豆腐や伏見のお酒といった食文化、三千家の家元が集まる茶の湯文化、染色・友禅といった産業文化が発展してきた経緯についてご説明いただきました。4 大文明や現在の日本の大都市は平野に分布し大きな河川があり、文明や大都市の形成、維持は水の存在が重要不可欠であるとの前提条件に対し、大河川のない京都中心部では特異な地形地質によって形作られた「京都水盆」と呼ぶ、豊富な地下水があり、井戸の遺跡の発掘により平安時代当時は地表から 1～2m 掘っただけで飲用水として利用できるほど新鮮な水が採取され、生活の基礎となる清潔な環境が整っていたとのご説明をいただきました。「京都水盆」の地下水賦存量は琵琶湖にも匹敵する 200 億トン以上と推定されるとの説明には参加されていた方々から感嘆の声もあがりました。

講演の後半には、「21 世紀は水の時代」と題し、水をとるまく世界各国の現状についてご紹介いただきました。日本は水が豊富である中で、さらに食料輸入によって間接的に世界の水をたくさん使っていること、またこの状況は 20 年前から大きくは変化していないことが説明され、SDGs 推進の時代において、水に対する考え方を変えていかなければならないとお話をいただき、講義を締めくくられました。講義後の、質疑応答は時間の都合上ありませんでした。

文責：水谷 光太郎（GRI）



講演される楠見先生（左）、会場後部より（右）